

科目名	化学基礎演習	単位数	1	必修選択	選択
教科書	化学基礎(東京書籍)				
副教材	大学入学共通テスト対策 チェック&演習 化学基礎(数研出版)				

教科・科目の内容

大学入学共通テストの化学基礎に対応するには、昨年度に学習した化学基礎のどの單元に対しても問題を解けるようにしておかなければなりません。元素記号、周期表、電子配置、化学史に関わる基本法則などの暗記分野はもちろんのこと、加えて、物質量、化学反応式と量的関係、熱化学、酸塩基、酸化還元などの計算に関わる分野も、この演習の授業を通して問題を解けるようにしていきます。

日常生活や将来とのつながり

この科目においては2つの柱があるでしょう。一つは、受験に関わる1科目である「化学基礎」でより高得点を目指すという、はっきりした目標です。2年次に学習して苦手意識を持った分野があるかもしれませんが、この科目で問題を解くことを積み重ねていけば、必ず克服できるはず。より高い目標に到達できるように努力しましょう。二つ目は、現在、日常生活において、化学に関わる物品があふれています。これらが私たちの生活をより裕福にしているわけです。それらに対して知識を持てば、より意味のある生活が送れるはず。その知識をこの科目で得ていきましょう。

この授業の学習方法(予習と授業の関わり)

予習として、授業で演習する問題に必ず目を通して置いて下さい。自分で一度解くことで分からない所が見えてきて、効率の良い学習につながります。また、授業であつかう問題に関連したものを自主的に解いてみることも非常に有効です。

化学演習の学習では、今述べたように予習は重要です。その上で説明をよく聞き、板書はもちろん、口頭説明でも重要と思われることは全てノートに取りましょう。

到達目標

日常生活や社会との連携を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

評価の観点(評価方法)

① 関心・意欲・態度(行動観察)

日常生活や社会との関連を図りながら自然現象について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。

② 思考・判断・表現(行動観察・定期試験)

自然の事物・事象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。

③ 技能(実験レポート)

自然や自然現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。

④ 知識・理解(小テスト・定期試験)

自然の事物・事象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

指導学年	科目名	単位数	教科書名(出版社)	副教材名
3年	化学基礎演習	1	化学基礎 (東京書籍)	大学入試共通テスト対策チェック&演習 化学基礎(数研出版)

学期	学習内容	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価の観点			
			関	思	技	知
一 学期	主に物質の構成について副教材を用いて問題演習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解する。 化学結合と物質の性質との関係を理解する。 	○	○		○
	主に物質の変化について副教材を用いて問題演習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 化学反応に関する基本的な概念や法則を理解させる。 計算問題について理解を深める。 	○	○		○
	期末テスト			○		○
二 学期	主に酸・塩基について副教材を用いて問題演習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 実験方法について器具等の使用方法を理解する。 	○	○	○	○
	主に酸化・還元について副教材を用いて問題演習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 酸化と還元が電子の授受によることを理解する。 電池電気分解の発展的な内容も理解する。 	○	○	○	○
	期末テスト			○		○
三 学期	共通テスト本番に向けたより実践的な問題演習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 共通テスト直前問題集で対策をする。 	○	○		○

備考	
----	--